

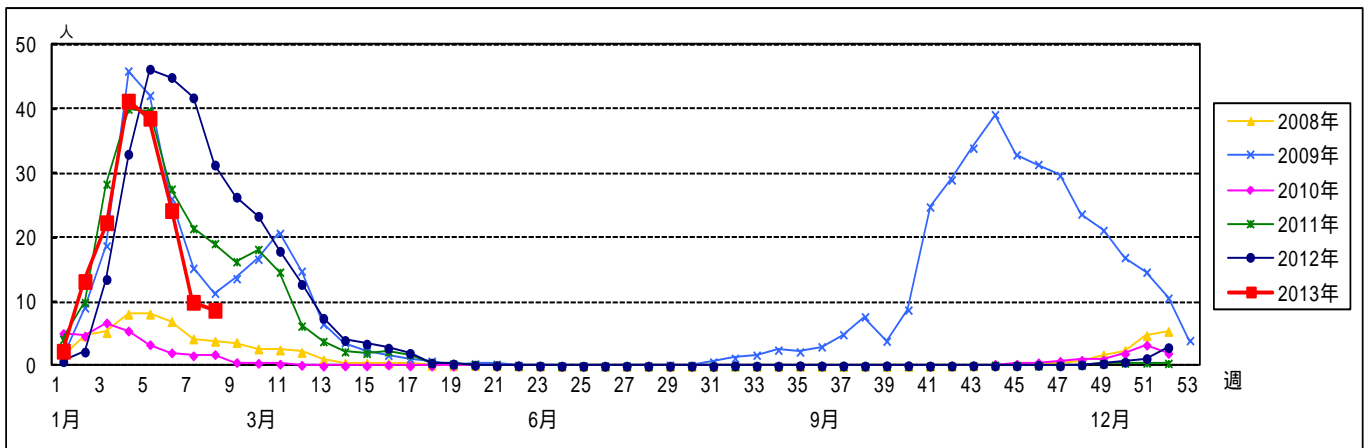


## 定点把握の対象

1 **インフルエンザ**:第8週に市全体で定点あたり8.72となり、警報終息基準値(10.00)を下回りました。ただ、区別では現在も警報レベル、注意報レベルの区があり、注意が必要です。第8週の迅速キットの結果はA型89.8%、B型10.2%、AB型ともに陽性0.0%でした。横浜市衛生研究所におけるウイルス検出結果(2月27日現在)では、AH3亜型が93.7%とほとんどを占めており、全国とほぼ同じ傾向です。市内で検出されたインフルエンザウイルスについて国立感染症研究所でワクチン株との抗原性解析(HI試験)を行ったところ、AH3亜型株、AH1pdm09型株、B型(山形系統)株ではすべて2管差以内でした。なお、一般的にHI価4倍(2管差)以内でワクチン株と類似しているといわれています。また、同じく国立感染症研究所で実施された薬剤感受性試験では、市内で検出されたAH3亜型株、AH1pdm09型株、B型(山形系統)株とも、オセルタミビル、ペラミビル、ザナミビル、ラニナミビルに対する感受性低下は認めませんでした(2月25日現在)。

[インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)   [インフルエンザ臨時情報](#)

平成25年 週 - 月日対照表	
第5週	1月28日～2月3日
第6週	2月4～10日
第7週	2月11～17日
第8週	2月18～24日



- 2 **感染性胃腸炎**:第8週では6.12と落ち着いていますが、施設内等での集団発生は現在も報告されているため、引き続き注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。  
横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>  
 横浜市衛生研究所:横浜市感染症臨時情報 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>
- 3 **性感染症**:1月は、性器クラミジア感染症は男性が27件、女性が7件でした。性器ヘルペス感染症は男性が9件、女性が6件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が17件、女性が2件でした。
- 4 **基幹定点週報**:全国では**マイコプラズマ肺炎**が定点あたり1.00を超える状況が長らく続いていましたが、昨年の年末に1.00を下回り、第8週では0.49と減少傾向です。横浜市でも第5週1.33、第6週1.00、第7週1.00、第8週0.00、とやや落ち着いてきましたが、まだ多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 5 **基幹定点月報**:1月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症18件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件が報告されました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>